

TIFA

30th Anniversary

~Since1992~



立川国際友好協会

Tachikawa International
Friendship Association

目次

会長挨拶	2
祝辞	3
TIFAのあゆみ	5
2011年度下期～2022年度上期	
運営委員会 役員一覧	
統計 グラフ	
立川国際友好協会について	15
各部活動紹介	16
木曜教室	
土曜教室	
西砂教室	
企画渉外部	
広報部	
会計部・事務局・保育室	
特集 トピックス	22
座談会 コロナ禍での学習	
西砂教室の歴史	
「えんがわサロン」の成り立ちと活動	
多文化共生・国際交流活動	
受講生のメッセージ	26
編集後記	28

<表紙写真>

国営昭和記念公園カナル大噴水
水しぶきの白い輪が多文化共生と国際交流
を表しているように思われました。



創立30周年を迎えて

立川国際友好協会

会長 木下 究

立川国際友好協会（TIFA）は、本年、創立30周年を迎えました。

30年の長きにわたり活動を継続できたのは、立川市をはじめさまざまな方々のご支援、ご協力のたまものだと思いますが、なによりも会員のみなさんの熱意あふれるボランティア活動がその原動力だったと思います。

創立当時を振り返ってみますと、1990年に出入国管理法が改正され、「定住者」の創設など、在留資格が再編されて、ブラジル、ペルーなどから日系人の入国が容易になりました。立川市でも、法改正前の1989年には1,442人だった外国籍市民が、TIFA創立の1992年には2,129人と、わずか3年で約1.5倍にふえています。

それから30年、2022年の外国籍市民は4,723人と倍増し、立川市の総人口に占める割合も2.55%と、1992年の1.38%から1ポイント以上増加しています。

さらに、この間の変化は人数の増加だけではありません。出身国が多様化しています。1992年には、立川市の在留外国人のうち、韓国・朝鮮、中国、フィリピン、米国籍の方が84.7%を占めていましたが、2022年には72.5%まで低下しています。ベトナム、ネパール、インドネシアなどアジア諸国出身の方もふえ、多国籍化しているのです。さまざまな国の言語や文化を知る努力が求められています。

そして、未来を見すえるうえで大切なことは、外国ルーツの方々なくして、少子・超高齢化の日本社会は存立・機能しえない状況に至っているということです。

高齢化や過疎化などで構造的な人材不足に悩む地方の農業や漁業の現場では、技能実習生がその穴を埋め、日本の食のシステムを支えています。東京都内では、事業を継承する若い人たちが少ない中小企業などで実習生を受け入れている例が多いと推測され、江戸川区、足立区、大田区など中小企業の集積している自治体に多くの実習生が集まっています。そして、多くの外国ルーツの若者たちが、コンビニや飲食店で働き、われわれの日常生活を支えています。

このような現状を踏まえると、一方で国レベルでの在留制度の抜本的な改善を展望しながら、他方で地道な活動を展開し、多文化共生の地域社会を築いていく大切さを痛感します。

TIFAの活動は、外国人市民への日本語教育というささやかなものではありません。しかし、その活動の意義、大切さを胸に、外国人市民の日本語学習に伴走しながら、先人たちの蓄積されてきた成果を引き継ぎ、30周年を機に新たな一步を踏み出すことができればと願っております。

みなさま方の変わらぬご厚誼と、ご指導・ご鞭撻をお願い申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

祝辞 — TIFA30周年に寄せて —



立川市長
清水 庄平

立川国際友好協会が、創立30周年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。

30年の永きに渡り、外国人居住者を様々な面からサポートされ、今日のご発展を見ましたのも、歴代会長や会員の皆様のご尽力の賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症のまん延により、新たに入国される外国人の方も少なく、貴会も従来のように活発な活動ができない状況だったと伺っております。そのような厳しい状況のなかでも、オンライン授業などを取り入れながら日本語教室等の活動を継続されたことは、異国の地で暮らす外国人にとって大きな心の支えとなったことと思います。

貴会では言葉の学習だけでなく、多文化交流サロン“えんがわ”の開催や、小学校を訪問して外国人と子どもたちの交流事業を行う等、在住外国人にとっては、日本人の友達を作り、文化を習得する絶好の機会となっております。

立川市の外国人の居住者は10年前に比べ、30%も増えており、互いによりき隣人として付き合っていくには、まず、日本という国の文化を知り、そして私達日本人も相手の文化・習慣などを尊重していく必要があります。そうした中での貴会の活動は、交流の架け橋となっており、誠に貴重な役目を担っております。

今後も貴会が外国人の支えとなり、ますますご発展されることを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。



立川市議会議員
木原 宏

立川国際友好協会が、創立30周年を迎えられましたことに市議会を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

立川市や周辺にお住まいの外国人が安心して暮らすことができるよう、熱心で崇高な志あるボランティアの方々が1992年6月に貴会を設立してからはや30年が経ちました。

この間、外国人のための日本語教室では、コロナ禍以前は年間延べ3000人を超える外国人の方が受講されてきました。また、日本語教室のみならず、七夕・ひな祭り等の行事や、各種パーティーなど様々な交流事業を行い、外国人同士の交流や地域との交流を深め、多文化共生の推進に多大なる貢献を果たしてこられたことに敬意を表します。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、来日される外国人が減少したり、日本語教室でも対面授業ができなかったり、言葉が通じない外国人にとっては、隣人との交流ができず孤立する状況となりました。そのような中でも、これまで外国人に寄り添ってきた経験と意思を生かし、オンラインを活用するなどの工夫を行いながら教室を開催されたと伺っております。

コロナ禍やウクライナ情勢など、不透明な情勢が続く世界の動向ではありますが、今後も立川市に住む外国人が地域の一員として安全に安心して暮らしていくために、皆様方の果たす役割は、一層重要となります。

最後に、立川国際友好協会のますますのご発展、ご活躍を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶いたします。

祝辞 —先輩のお言葉

発足時からのボランティア 徳永 泰子 TIFAに参加して30年



毎朝、国内外の元受講生からラインが入ります。コロナ禍、お互いに元気であることを確かめ合う朝の楽しいひと時です。つい先日も、私が退会時まで一緒に勉強していた生徒から嬉しいメールが届きました。「徳永先生、ご無沙汰致しております。三寒四温を感じる季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。その『三寒四温』と言う四字熟語を先生に教えて頂きました。日本語教室で先生にお会いできて、沢山の日本語を教えていただいたり、楽しく会話もしたりしました。とても懐かしくありがたく思っております。コロナが落ち着いてきたら、またお会いできたら嬉しいなと思います。」

1991年、一市民の呼びかけから始まった日本語教室、ここを巣立った受講生達が今は世界中にいます。7年前から子供たちも参加し外国人のためのサロン（えんがわ）も加わり、一粒の種子が花を咲かせる姿を見ることができ嬉しく思います。

元松中教室代表 神野 益臣

30周年、おめでとうございます。これまで活動に参加された方々、現行会員諸氏のご努力に敬意を表します。私は3年ほど前にコロナの影響が出始めたころ、ベトナム人学習者達が帰国したのを機に、17年間続けたボランティア活動を卒業しました。私は旧松中日本語教室からTIFAへの移籍会員でした。両教室の統合は2011年でしたが、これは当時のTIFA会長齋藤氏から「同じ志を持つ者同士、一緒にやりましょう。」と声をかけて頂き実現したものです。現在はTIFA西砂教室と称して活動していますが、統合がなければ松中教室活動の断念もあったかと思うと感謝することひとしおです。

活動期間中、当初は中国残留帰国者を対象にした日常生活にかかわる日本語学習でしたが、すぐに地域に住む外国人達、近年は技能実習生・研修生の人たちが集まり出しました。常にそうした学習者のニーズに出来るだけ沿った教室活動をと心掛けてきました。これからもさまざまに変化する学習者ニーズを的確にとらえた活動を続けていただくようお願いしてご挨拶とさせていただきます。

元TIFA会長 長屋 多美子



創立30周年おめでとうございます。

在日外国人医療ボランティアの会で活動していた私がTIFAを知ったのは、平成6年「外国人の為の無料健康診断」をお手伝いしたからです。手遅れで救えなかった命、それを防ぐ為に何か出来ないかと、TIFA会員でもあった田中穂積医師が始められ、体調を崩される迄10年余り続けられました。私は退職を機に日本語教室の講習を受け、平成11年4月に入会しましたが、当時のTIFAの伊藤稔会長が立川市民生児童委員協議会の会長でもあった事は、民生委員活動を始めたばかりの私には不思議なご縁に思えました。

日本語で日本語を教える事が、どんなに困難かを痛感しつつ、田中先生や創立に尽力された先輩方の心を大切に、ボランティアとは何かを考え続けた20年でした。ボランティアの皆様や受講生の皆さんとの思い出は私の宝物、TIFAで活動出来た事を誇りに思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍をお祈り致します。

TIFAのあゆみ 2011年度下期～2022年度上期

2011年度

- 12月 TIFA20周年記念式典&イヤーエンドパーティーを開催
柴崎学習館 1 階 講堂にて開催し、立川市長、市議会議員、
元TIFA会長等の来賓を含め約180名が参加。



2012年度

- 4月 松中教室、木曜教室、土曜教室の開講式
来賓：協働推進課長、多文化共生係長他

松中教室



木曜教室



土曜教室



- 10月 秋のバス旅行
箱根大涌谷、芦ノ湖、箱根関所方面、参加者は48名。



箱根の関所



- 11月 世界ふれあい祭り
昭和記念公園のみどりの文化ゾーンで例年通りバザーを出店。

- 12月 イヤーエンドパーティー
204名参加。マイ食器、ゴミの各自持ち帰りを実施。

- 2月 木曜教室ボランティア研修会
国立国語研究所から講師を招き、テーマ：外国人にとって「やさしい日本語」について聴講。

- 3月 木曜教室、土曜教室スピーチ大会

総会



懇親会



2013年度

- 5月 TIFA定期総会
例年は柴崎学習館で開催するが、今回は
柴崎会館で行い、総会終了後に懇親会。

7月 南砂小学校との交流学习

10月 秋のバス旅行

鎌倉、江の島方面。生憎の雨天にも拘わらず実施。

12月 イヤーエンドパーティー

旧柴崎学習館では最後のパーティーとなるため、204名もの参加者。



江の島水族館

2月 木曜教室ボランティア研修会

国立国語研究所から講師を招き、テーマ：日本語を教える上での留意点について聴講。

3月 木曜教室、土曜教室スピーチ大会

2014年度

7月 立川防災講座と防災館見学

市役所の会議室で「外国人のための立川防災講座」を受講した後、防災館で地震の模擬体験。



9月 柴崎学習館の移転

第一小学校、柴崎学習館、柴崎図書館、柴崎学童保育所を併設した複合施設が2014年8月上旬に完成。新柴崎学習館で木曜教室、土曜教室は9月から2学期を開始。



南砂小学校との交流学习

国際理解授業に5名（フィリピン人3名、ブラジル人1名、アメリカ人1名）の受講生が参加。

交流会に参加した来日1年目の米国女性から“日米小学生の違いについて”の感想文が寄せられた。



11月 “世界ふれあい祭” TIFAバザー

会場には32のテントがあったが、「TIFAのテントが一番客が多い」という調査報告あるほど大盛況。

秋のバス旅行

石和温泉、忍野八海、河口湖周辺。天候も良く、富士山や美しい紅葉を見ることができた。

参加者は53名で、例年に比べ受講生と家族の申込みが多かった。



11月 土曜教室ボランティア研修会

日本語教育研究所から講師を招き、テーマ：日本語における助詞の重要性について聴講。

12月 イヤーエンドパーティー

参加者150名。

2月 木曜教室ボランティア研修会

日本語教育研究所から講師を招き、テーマ：初心者指導に対するコツ（留意点）についてを聴講。

2015年度**7月 防災講演及び防災館体験**

受講生とその家族、及びボランティアの他、一般募集の市民も含め総勢20名程参加。

**8月 松中教室研修会**

日本語教育研究所から講師を招き、テーマ：国内の日本語学習者の現状について聴講。

10月 土曜教室ボランティア研修会

和洋女子大学から講師を招き、テーマ：多文化共生の現状について聴講。

TIFAボランティアが講師をして「動詞・形容詞の文法」の説明。

**11月 秋のバス旅行**

千葉幕張、葛飾柴又方面に行き、参加者は大人29名（内ボランティア5名）、子ども6名（内幼児1名）の計35名。

12月 イヤーエンドパーティー

参加者は約200人、昨年に比べおよそ30～40人程多い。

**1月 松中教室から西砂教室に名称を変更**

松中小学校を借りていたが、名称変更後、西砂学習館を使用。



松中小学校



西砂学習館

2月 木曜教室研修会

立川市協働推進課の係長を講師に招き、「第3次多文化共生推進プラン」について研修。

2016年度**4月 TIFA多文化交流サロン「えんがわ」をスタート**

毎月1回定期的にサロンを開催。「日本語を話したい人」「日本の文化を知りたい人」「暮らしの情報を得たい人」などが集い、毎回さまざまな交流を行った。

5月 ボランティア懇親会

“がんこ武蔵野立川屋敷店”で開催。参加者27名、教室が違うと全く面識のない方も多く、お互いが知り合う良い機会になった。

6月 西砂教室ホームページ開設 URL : <https://tifa-n.net/>

7月 TIFAホームページ開設 URL : <https://tifa-class.net/>

立川市生涯学習ボランティアの指導により開設。

8月 西砂教室の研修会

日本語教育研究所から講師を招き開催、16名の参加者が4つのグループにわかれて、議題について話し合い、内容を発表。



10月 秋のイベント

20名が参加し、約60分間の「サントリー武蔵野ビール工場」見学。

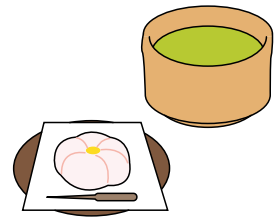


土曜教室ボランティア研修会

「在留外国人の現状と在留資格」「技能実習制度の現状」について。みんなの日本語第1課～第20課について。参加者：18名

12月 イヤーエンドパーティー

柴崎学習館地下1階のホールで開催。参加者は昨年より若干少なく161名だったが、会場は熱気でいっぱいであった。



2月 土曜教室の節分

節分の説明を行ったあと、ボランティアが鬼に扮し、その鬼を相手に子ども達は豆を投げて節分の気分を味わった。

土曜教室の茶道体験会

ボランティアの先生が受講生に順番に作法を教え、日本の文化を楽しんでもらった。



3月 木曜教室スピーチ大会

12名が参加。家族や趣味のこと、日本と母国の文化の違い、自分で描いた絵を掲げながら母国の祭事を解説。

土曜教室スピーチ大会

出席した受講生の全員が約2分間のスピーチ。職場の話、家族の話、故郷の話、俳句や川柳等で、スピーチの内容はみな新鮮でバラエティーに富んでいた。



2017年度

5月 多摩動物公園グループツアー

参加者は総勢23名。ブラジル、ベトナム、アメリカ、カナダ、ベナン、中国の6カ国出身の受講生とその家族が参加。



7月 土曜教室七夕祭り

TIFA柴崎学習館の保育 保育士からのメッセージ



8月 西砂教室研修会

国際基督教大学から講師を招き開催。柴崎教室からの3名を含め23名が参加。

11月 世界ふれあい祭りのバザー

会場は昭和記念公園みどりの文化ゾーンで、出品した物はボランティア・受講生がリサイクル用に保管した物や、友人・知人らから譲り受けたものが大半であった。

12月 イヤーエンドパーティー

柴崎学習館地下1階のホールで開催。約140名の受講生とその家族、友人、ボランティアが参加。従来の演目を鑑賞するスタイルから、全員が参加するよう企画した。

3月 木曜教室スピーチ大会

9カ国17名の受講生が、慣れない日本語で自己紹介や自国と日本の習慣の違い、日本に移住するまでの苦労についてスピーチした。



土曜教室カルタ大会

通常授業の後、3階の作業室に集まり、“ことわざカルタ”や“百人一首”を楽しんだ。

2018年度

6月 ボランティア懇親会

立川グランドホテル（現ホテルエミシア東京立川）11階オークで開催。参加者は木曜教室から5名、土曜教室から11名で、ボランティア同士で互いに知り合い、親睦を図ることができた。



8月 西砂教室夏期研修会

国立国語研究所から講師を招き、「地域日本語教育の展開と多文化共生社会」をテーマに研修。

諏訪神社例大祭 お神輿

立川青年会議所からの誘いにより諏訪神社例大祭の神輿（みこし）かつぎに参加した。TIFAからの参加者は受講生24名、ボランティア6名。



10月 土曜教室ボランティア研修会

柴崎学習館第1教室で土曜教室ボランティア2名が講師を務めた。
参加者：10名で、内容は以下のとおり。
講師A：今まで教室で教えて感じたこと、JICAでの駐在体験談。
講師B：新しい語彙の導入方法、語彙の教え方。



11月 土曜教室スピーチ大会

22名の受講者が発表に挑戦し、初中級と上級の二つの教室に分かれて緊張したムードの中で進められた。

12月 イヤーエンドパーティー

柴崎学習館地下1階のホールで開催し、ボランティアと受講生の参加者数は子どもを含め134名。

2月 土曜教室の節分

4名のボランティアが鬼のお面を被り、教室を順番に闊歩し、受講生と一部ボランティアが鬼に向かって豆を投げる活動は毎年の恒例行事。



3月 土曜教室のひな祭りとお手玉遊び

立川お手玉会の指導の下、“お手玉遊び大会”を開催。参加者36名は検定級取得を目指し一生懸命だった。



2019年度

5月 西砂教室ハイキング

受講生とボランティア24名で狭山丘陵の都立野山北公園へハイキング。



6月 西砂教室受講生・ボランティア交流会

西砂学習館で交流会を開催し、参加者は子どもも含めて25人で、会場の笹の葉の七夕飾りには自分たちの夢や願い事を書いた短冊を飾った。



7月 土曜教室ボランティア研修会

行政書士の講師を招いて、出入国管理法の改正に伴う「在留資格の分類と特定技能」について研修。

参加者：32名。

8月 西砂教室ボランティア講習会

国際基督教大学から講師を招き、“やさしい日本語で外国人とつながろう！”をテーマに開催した。

参加者はボランティア講師17名、西砂地域に住む一般の方14名の計31名。



10月 土曜教室ボランティア研修会

参加者は土曜教室から23名の他、木曜教室から6名。

講師：土曜教室ボランティア

テーマ：①日本語文法「は」と「が」の使い分け

②やさしい日本語の作り方



12月 木曜教室ランチパーティー

年に2回、各自料理を持ち込み飲食しながら楽しく歓談し、親睦を図ってきたが、コロナ感染防止のため今回が最後で、コロナ終息後の実施については未定。

12月 イヤーエンドパーティー

参加者数は子ども、幼児を含め約160名で、昨年より約20名多い。開宴前と食事の時間帯に、舞台前面の大型スクリーンから受講生の紹介やスピーチ大会の様子等を放映。



2月下旬 新型コロナウイルス感染防止対策のため、西砂教室、土曜教室は休講措置を開始

3月上旬 木曜教室も同様に休講措置を開始

2020年度

木曜教室、土曜教室は、1学期全ての期間で休講を継続

西砂教室は2学期のみ開講

5月 TIFA定期総会

新型コロナウイルス感染防止のため一堂に会する総会を中止し、郵送による書面で表決。

9月上旬 木曜教室、土曜教室は授業を再開

対面授業を望まないボランティアと受講生のためにはオンライン授業を開始。

入室前の検温、手の消毒、対面を避け横並びで互いの距離を確保する等の徹底した感染対策を実施した。



12月 西砂教室は希望者に対しオンライン授業を開始

イヤーエンドパーティー“げんきかい”を開催

参加人数を制限し、飲食の提供を止め、演目の数を減らし、開催時間を短くした。またZoomによるオンライン参加も可能にした。

1月～3月下旬 新型コロナウイルス感染防止のため3学期のすべての対面授業を休講



2021年度

4月上旬 木曜教室、土曜教室を開講

開講期間中、夜間遅い利用を避けるため開始時間を早め、消毒、検温、3密の回避を徹底。
西砂教室は休講を継続。

4月下旬 木曜教室は再度休講

5月上旬 土曜教室は再度休講

5月 TIFA定期総会

コロナ感染対策をとり、万難を排し開催。会員総数：60名、出席：21名、委任状：38名。



6月 木曜教室、土曜教室は開講、西砂教室は休講を継続



10月 TIFA研修

市民講座として3日間開催
会場：女性総合センターアイム3階
参加者：42名（うち市民参加者17名）
講師：YSCグローバルスクール統括 コーディネーター
テーマ：外国ルーツの子どもたちを取巻く課題



12月 イヤーエンドパーティー“げんきかい”を開催

2020年度と同様に参加人数を制限し、飲食の提供を止め、演目の数を減らし、開催時間を短くした。

1月 えんがわサロンの子どもイベント

柴崎会館3階学習室にて外国ルーツの子ども達を対象に「えんがわサロン：アートで多文化共生」を開催。
乳幼児も含め15名の子ども達が参加。



3月 木曜教室スピーチ大会

2日に分け、柴崎学習館3階作業室にて13名の受講生が一生懸命に発表した。

土曜教室スピーチ大会

地下1階の第1教室にて開催し、8名の受講生が発表。
全体的に日本語のレベルが高く、個性の溢れるスピーチであった。



2022年度

5月 TIFA定期総会

コロナ禍が小康状態になる中、柴崎会館で開催。
会員総数：58名、出席：25名、委任状：22名



6月 土曜教室ボランティア研修会

今後の活動の参考になる指導法の実例を紹介
日時：6月25日（土）15～17時
場所：柴崎学習館 地下1階 第1学習室
講師：土曜教室ボランティア 3名 参加者：16名



運営委員会 役員一覧 (2001年度～2022年度)

年度	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
会 長	澁谷直毅	澁谷直毅	坂東脩司	坂東脩司	樫村富美子	山崎耕造	山崎耕造	長屋多美子	長屋多美子	齋藤實	齋藤實
副会長	佐々木信	杉坂由記子	吉川敏之	吉川敏之	波多野進	波多野進	波多野進	波多野進	波多野進	波多野進	波多野進
	原和栄	原和栄	桐ヶ谷征子	赤嶺令子	赤嶺令子	草野栄雄	長屋多美子	赤嶺令子	赤嶺令子	赤嶺令子	赤嶺令子
	山下良子			樫村富美子							
事務局長	熊谷祐美子	有田まさみ	樫村富美子	杉原慶子	佐藤昭士	佐藤昭士	佐藤昭士	増田正道	増田正道	増田正道	増田正道
会計部長	上野永子	山崎耕造	小町美弥子	小町美弥子	小町美弥子	戸張信江	山崎耕造 (兼)	中山尚子	内野貴之	内野貴之	内野貴之
企画渉外部長	佐々木信	波多野進	吉田敏子	長屋多美子	長屋多美子	長屋多美子	河野光雄	河野光雄	河野光雄	橋本溪一	橋本溪一
広報部長	野口節子	岡部幸子	野口節子	野口節子	赤尾義人	赤尾義人	赤尾義人	中西久代	野口節子	野口節子	野口節子
木曜教室部長	矢澤伸江	小川美子	肌附崇子	肌附崇子	草野栄雄	赤嶺令子	赤嶺令子	齋藤實	齋藤實	小木曾夏樹	小木曾夏樹
土曜教室部長	池田智子	胡麻田利恵	森初枝	松原憲絵	佐々木信	佐々木信	佐々木信	佐々木信	波多野進	原島貢	原島貢
西砂教室部長											神野益臣 (松中)
会計監査	六反園文雄	六反園文雄	佐藤昭士	佐藤昭士	吉川敏之	澁谷直毅	吉川敏之	吉川敏之	吉川敏之	吉川敏之	吉川敏之
		吉川敏之		原和栄	原和栄	小町美弥子	小町美弥子	佐藤昭士	佐藤昭士	山崎耕造	山崎耕造
		上野永子					齋藤實		杉原慶子		

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
会 長	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實	齋藤實	木下究	木下究	木下究
副会長	波多野進	波多野進	波多野進	波多野進	橋本溪一	橋本溪一	橋本溪一	橋本溪一	柏田泰利	柏田泰利	小林保
	赤嶺令子	赤嶺令子	赤嶺令子	赤嶺令子	近藤誠	近藤誠	近藤誠	近藤誠	牛島芳	牛島芳	赤嶺令子
事務局長	柏田泰利	柏田泰利	柏田泰利	柏田泰利	赤嶺令子	赤嶺令子	荒井由貴子	味香建夫	奥田正博	奥田正博	富田康予
							味香建夫				
会計部長	吉澤孝一	吉澤孝一	吉澤孝一	松本久	松本久	松本久	松本久	松本久	森和子	森和子	森和子
企画渉外部長	小林保	小林保	近藤誠	近藤誠	増田正道	増田正道	牛島芳	牛島芳	大西一光	大西一光	葛 敦
広報部長	山崎員弘	山崎員弘	小林保	小林保	小林保	小林保	小林保	小林保	野口節子	木下究(兼)	の場正道
										の場正道	
木曜教室部長	小木曾夏樹	小木曾夏樹	小木曾夏樹	小木曾夏樹	小木曾夏樹	小木曾夏樹	佐藤達夫	佐藤達夫	神原修	神原修	柏田泰利
土曜教室部長	橋本溪一	橋本溪一	橋本溪一	の場正道	の場正道	の場正道	の場正道	の場正道	佐藤民江	佐藤民江	佐藤民江
西砂教室部長	神野益臣 (松中)	佐藤公男 (松中)	佐藤公男 (松中)	佐藤公男 (松中)	佐藤公男	佐藤公男	佐藤公男	佐藤公男	磯崎雅樹	佐藤公男	岡田良雄
	後藤卓美 (松中)										
会計監査	吉川敏之	吉川敏之	吉川敏之	坂口英治	長屋多美子	長屋多美子	奥田正博	奥田正博	大西美香	大西美香	波多野進
	坂口英治	杉坂篤	山崎員弘	山崎員弘	佐藤達夫	佐藤達夫	赤嶺令子	赤嶺令子	山下良子	山下良子	山下良子
		山崎耕造									

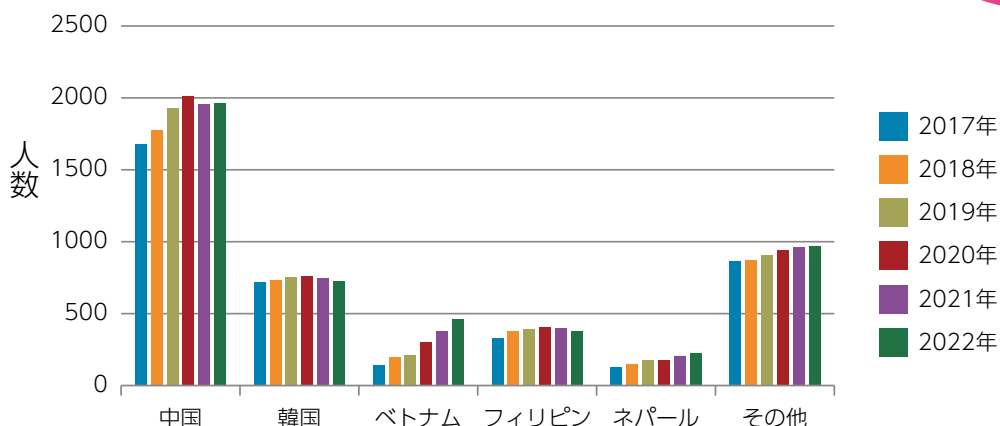
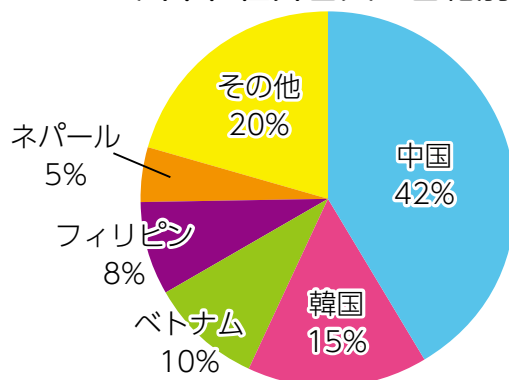
立川市在住外国人数、教室参加者の推移

立川市在住外国人数

中国	1,964
韓国	726
ベトナム	462
フィリピン	379
ネパール	223
その他	969
総数	4,723

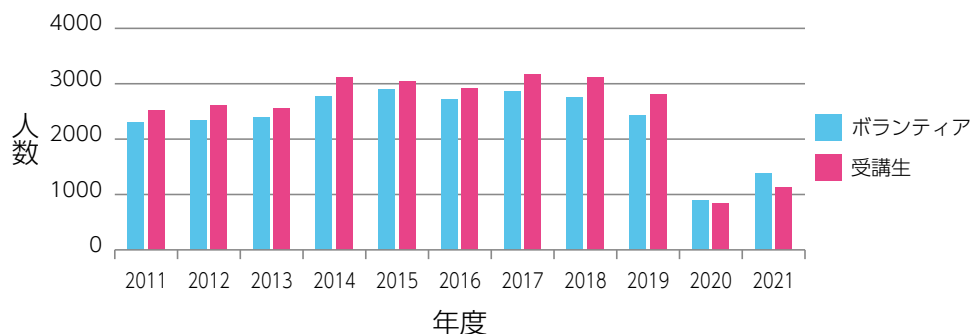
2022年1月1日現在 単位：人

立川市在住外国人の国籍別人数



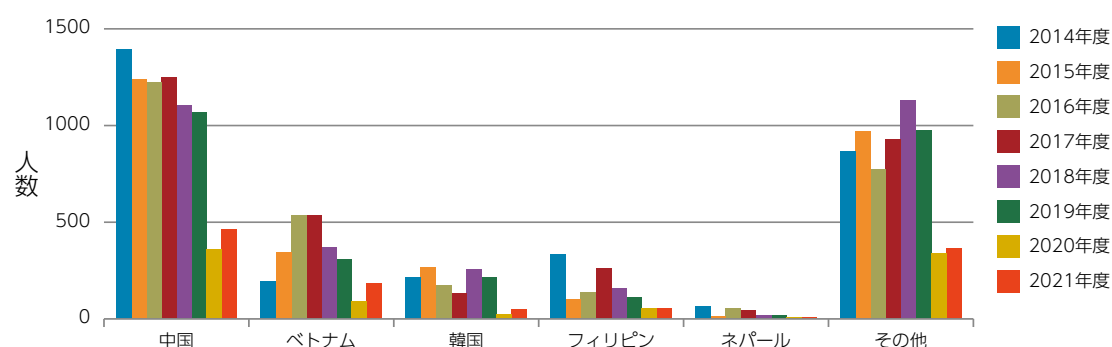
ボランティア・受講者人数の推移<延べ人数>

2011年度～2021年度



国籍別受講者人数の推移<延べ人数>

2014年度～2021年度



立川国際友好協会（TIFA）について

TIFAはTachikawa International Friendship Associationの略称です。

■TIFAの成り立ち

外国で不測の急病や盗難に遭った際、言葉の壁で苦勞した経験を持つ一市民が、同じような立場にある地域の外国人の為に何かできることはないかと、立川ボランティアセンターに申し入れをしました。この申し出を受け、1991年12月同センターで「外国語のできるボランティア」を募集したところ30人ほどが集まり、予想以上の反響がありました。

翌年1月より例会が持たれ、その後、市社会福祉協議会から助成金が出たことを直接の契機として、1992年4月にボランティアグループ「立川国際友好協会（TIFA）」が正式に結成されました。そして同年6月には市長、市議会議長出席の下に発会式が行われました。

同時に立川市中央公民館が開催する事業「日本語教室」への協力要請があり、TIFAのボランティア講師により先ず土曜日クラス（夜）を、次いで同年11月からは木曜日クラス（昼）を開講しました。1993年4月からは立川市の委託事業となり「外国人のための日本語教室」として今日迄活動しています。

■TIFAの目的

TIFAは目的に賛同して入会した会員からなる無償ボランティア団体です。地域の外国人が日本の社会・文化・生活習慣をより良く理解し、より有意義な生活が送れるような交流活動を行います。異なる文化的背景を持つ人々との出会いを通じ国際交流・国際親善に努めます。

■TIFAの活動

立川市の委託事業として「外国人のための日本語教室」を開設しています。会員は部活動に参加して、その運営や企画を行いその役割を担います。活動を通じて、外国人が日常生活に必要とする情報の提供など快適な社会生活が送れるよう、助言を行っています。柴崎教室（木曜教室・土曜教室）・西砂教室があり、会員数は約60名、2022年6月に創立30周年を迎えました。

【日本語教室に関する連絡先】

立川市役所 市民生活部 市民協働課 多文化共生係 電話：042-523-2111 内線2632

■組織及び部の役割・概要

意思決定機関として、総会と運営委員会（会長・副会長・各部長で構成）が設置されています。

会長・副会長・各部	部の役割・概要
会 長	本会の代表
副会長	会長を補佐し、必要に応じ会長を代行
教室部 (木曜・土曜・西砂3教室)	日本語教室のスムーズな運営・計画・実行 教室部主催のスピーチ会・日本文化体験等のイベント実施
企画渉外部	全体参加型イベントなどの事業の計画・実施
広報部	会報の発行・ホームページの更新・管理
会計部	会の会計処理、決算処理と決算報告書作成
事務局	総会・運営委員会・役員選挙の統括、会の運営上必要な事務
会計監査	会計に関わる会計監査

木曜教室 活動紹介

活動概要

木曜教室は柴崎学習館にて毎週木曜日午前10時～11時30分に授業を行っています。授業形態は会員と受講生とのマンツーマンを基本とし、受講生の要望に沿った内容で実施しています。平日昼間の時間帯なので、「生活者としての外国出身の方」が多く、日々の生活に必要な手続き、子どもの学校からの文書内容への質問や勤務先に提出する報告書の記入方法等、その内容は多岐にわたっています。また、「七夕まつり」等の日本古来の行事を実施したり、市内小学校で受講生と小学生とが直接触れ合える多文化交流の機会を設けたりしています。木曜教室部は4名の体制で、教室活動のサポートを実施しています。

(神原修)

木曜教室は平日午前中の授業の為でしょうか、女性会員比率は毎年70%前後と高いです。受講生の比率も同様ですが、私達は日本語の学習だけではなく様々な要望に対応することを心がけています。

世界経済フォーラムの国別男女平等ランキング報告では、日本はかなり低い状況です。男女平等比にも意識した教室運営でありたいです。

(柏田泰利)

立川市には、自治大学校、統計数理研究所、極地研究所、国語研究所など知的集団の国立機関が存在しています。TIFAは国語研究所と連携し数回にわたり研修会を開催しました。極地研究所に派遣されたノルウェーのペンギン研究者が、日本語と日本文化を学ぶ為に参加したり、ポーランドの医学研究者が、夫婦で日本語学習に参加したこともありました。17年間の在籍中、多国籍の多彩な人材との交流を楽しむことができました。今後とも国立知的集団機関との交流も継続してまいりましょう。

(齋藤寛)

「こんな日本語教室が立川にあったらいいな！」海外から来られた方は、きっとこんな思いを抱いて教室に来られるのではないのでしょうか？50年以上前私が初めてパリに住んだ時、こんな場があったら良かったのに、と思うからです。教室に来られた方に簡単なヒアリングをし、ボランティアさんに繋げる、そんなパイプ役をしてきました。マッチングがうまくいって、笑顔で帰られる時は、私達も少しいい仕事ができたと嬉しくなるものです。

(柳井泉)

創立数年後にTIFAに入会しましたが、その後ボランティア、受講生共に増えていき、日本語学習とともに、バスハイク、中央公民館全館を使ったスピーチ大会、年末パーティーなどが催されました。準備、片付けなど大変なこともありましたが、受講生、ボランティアが協力して実施・参加できた楽しい思い出です。今はコロナの影響もありますが、これからも形を変えながらも、受講生に寄り添った会であり続けていくことを願っています。

(山下良子)



土曜教室 活動紹介

活動概要

土曜教室は毎週土曜日午後7時～8時30分に授業を行っています。受講生が日本で安心して生活を送るための支援の一つとして、TIFA日本語教室があります。また柴崎学習館で対面授業を基本にしている事はTIFA創立当初から変わりません。2020年度以降は新型コロナウイルス感染防止対策をとりました。三密対策のため、部屋の使用人数を減らしました。さらに「上級者の卒業制」（受講年限を決め学びの席を譲る）と「申込者の待機制」を取り入れました。

季節行事は2年間中止しましたが、規模を縮小して行うまでに戻りました。スピーチ大会も年度末に実施、バラエティに富むスピーチは聴衆の関心を呼び、活発な質疑応答が交わされました。（佐藤民江）

この2年、教室部の一員として活動しています。コロナ禍の中で感染防止対策、オンライン授業などが新たに加わり、私はそのお世話をしてきました。授業風景がよく見えないところもありますが、多くの受講生への対応も可能になり、非常に有効なツールであると感じました。また対面活動として、ひな祭りやスピーチ大会も復活しました。みんなの笑い声、元気な顔が見えたのは大変良かったです。

これからも、地道にコツコツとやりたいと思います。（橋本溪一）



教室に通ってくる受講生は、年々多国籍化しています。彼ら彼女たちは多種多様な事情と目的のために来日しています。技能を身につけたい人、好きな分野で活躍したい人、日本で夢を実現させたい人など様々です。そこで最初に必要なのは、意思疎通をするための言葉を覚えることです。初めて日本で仕事を始める人にとってすぐに必要になることは、職場で日本人の上司や同僚と口頭でやり取りできる言葉です。つまり口と耳と目だけで意思疎通ができる日常会話なのです。職場には専門用語が山ほどあり、敬語、ビジネス用語もたくさんあります。

「さあ来たれ！我等が教室に」「習うより慣れよ、多聴多喋ですよ」

（杉本茂）

2020年11月に入会しました。初めての日本語講師、とまどいながらのスタートでしたが、初期研修をはじめ先達の方々に色々教えていただきながら、一年半を過ごすことができました。

2021年初頭からコロナのため学習館の使用禁止に伴いオンライン授業になりましたが、6月には対面授業に戻り安堵しました。やはりお互いに顔を見ながら会話もしながらの授業は、楽しいし刺激になると思います。季節の行事も貴重なひと時でした。

今後も受講生が楽しく上達できるように、私も勉強いたします。

（渡部宣子）



10周年20周年の記念式典に参加し、今年30周年を迎える機会に恵まれました。私の20年間の多くは、教室運営に関わりました。受講生が多い時は一人の講師に3～4人の受講生をお願いすることがありました。その中で私の悩みは、1、2回来たあとすぐ来なくなる受講生の事でした。「どうして来ないのか」と悩みました。30年の歴史をもってしても、今もその答えは得られていません。

（波多野進）

西砂教室 活動紹介

活動概要

西砂教室は西砂学習館にて毎週土曜日の午後7時から8時30分に開催しています。年に40回です。2016年ごろには小学生くらいの子どもの受講生も10人位いて専用の畳でゲーム形式の授業をしたりしてにぎやかでした。後半には近くの会社、工場で働いている受講生が多くなってきました。通常の授業以外に季節にあわせて土曜日、日曜日に近郊へのハイキングや交流会などを実施して日本の生活、習慣をたのしんでいただいています。ボランティア自身の勉強のためには、夏休み期間に大学・研究所などから外部講師をお願いして研修会が実施されました。

(遠山新一郎)

授業を離れてのイベント開催は講師、受講生の垣根を取り払い、ありのままで交流できるまたとない機会であると感じました。ありきたりのゲームや歌に趣向をこらして、楽しい内容にすることに腐心しました。2人3脚のミニサッカー、絵描き伝言ゲーム、見よう見まねの炭坑節など、みんなで大いに笑い、楽しんでいただけたと確信しています。受講生が本国に帰国後、アルバムに残るような企画に今後も助力して行きたいと思います。

(岡田良雄)



2015年からコロナ禍となる前の2019年まで、毎年夏に外部講師を招聘し研修会を開催しました。日本語教育研究所など民間機関からの講師招聘でスタートしましたが、2017年には国際基督教大学の半田敦子教授をお招きし、翌年は国立国語研究所の野山広准教授に日本語教育の在り方などをうかがいました。2019年は「やさしい日本語で外国人とつながろう!」をテーマに再度国際基督教大学の半田教授をお招きし、尚且つ西砂学習館近隣に5,000部のチラシを配布して一般参加も呼びかけました。近隣の12名を含め総勢30名の聴講者が集まり、引き続き開催された先生を囲みながらの懇親会で、大いに日本語について語り合いました。

(佐藤公男)

西砂教室にはこれまでに、フィリピン、中国、ベトナム、アメリカなど様々な国から来られた受講生が通われています。そのため、地図帳を用いて受講生の出身地や文化、食べ物などについて話題にする時には大変盛り上がり、学んだ日本語を使い一生懸命説明をしてくれます。日本を含めた他国との様々な違いに受講生同士で気づくこともあり、「ことば」だけではない学びがあると感じています。また、昭和記念公園散策など日本の四季を味わうイベントでは、受講生の、のびのびとした笑顔がこちらをととても幸せな気持ちにしてくれます。これからも、職場、学校、地域などで働き、学び、生活をされている受講生の力に少しでもなりたいと考えています。

(後藤直子)



企画渉外部 活動紹介

活動概要

企画渉外部は、ボランティア相互の親睦、ボランティアと受講生との交流を図るために、多くのイベントを企画し活動を行ってきました。年度毎に活動内容に若干の違いはありますが、主に以下の活動を行ってきました。

1. ボランティア懇親会
2. 防災館見学と体験
3. 秋の旅行
4. イヤーエンドパーティー

2020年度以降はコロナ感染対策のために、ほとんどの活動を中止しましたが、イヤーエンドパーティーは実施したいとの声が多くあり、飲食の提供を止め、参加人数を制限し、座席の間隔を広げ、開催時間を短くするなどの対策をとり開催しました。OB/OGや元受講生からのビデオレターの放映のほか、オンラインでも参加できるようにしました。

今後の活動

コロナ禍がいつ終息するか予測することは難しいですが、状況を注視しつつ少しずつイベントを多くしていき、ボランティアや受講生から要望を聞きながら、多くの人が楽しく参加できるようにしたいです。

企画渉外部のメンバー紹介

木曜教室：4名 波多野均、小林和枝、桐ヶ谷征子、田中脩



土曜教室：3名 岡田恵子、牛島芳、葛敦



企画渉外部員の声

▶ 今までの活動の中で良かったものについて

コロナ禍前

- ・多くの催し物があり、特にお子様連れが多かったこと
- ・バーベキューパーティーに多くの人が集まったこと
- ・夏祭りでお神輿を担いで練り歩いたこと
- ・浴衣で夏祭に参加したこと

コロナ禍の中でのイヤーエンドパーティー

- ・OB/OGがオンラインで参加
- ・受講生がスクリーンで自国の文化等を紹介

▶ 今後、どんな活動をしたいか

1. 簡素で全員参加のイベント
2. ①高尾山ハイキング
②御岳溪谷と澤乃井酒蔵見学
③着物で川越散策
④スカイバスでの東京観光と皇居周辺の散策
3. バス旅行
4. 多くのイベントをこなしていくこと

広報部 活動紹介

活動概要

広報部（柴崎教室）は2022年5月現在、6名の体制で運営されており、また西砂教室には広報係が置かれています。TIFA会報を年に数回定期的に発行しており、その為の取材、執筆依頼、原稿作成、編集、読者への配布・郵送などの業務を分担して行っています。市役所をはじめとする行政部門、市議会、市内学習館、図書館、近隣国際交流団体などへの配布を通じTIFAに関する広報に力を入れています。会報第1号は1992年10月に発行され、今日まで30年間で150号まで発行されています。

2016年7月にはTIFAホームページが開設され、また年ごとにその充実が図られて、迅速な情報伝達ができるようになっていきます。最近はQRコードも積極的に活用しています。

（木曜教室：田中鈴子 野口節子 宇佐美浩 土曜教室：的場正道 杉坂篤 佐藤尚美）

広報部の仕事について

「日本語を学びたい」という思いの受講生と「それを手助けしたい」という思いのボランティアとのコミュニケーションの場として、また活動の状況を行政、市民に幅広く情報発信するメディアとして、魅力ある会報を創るよう努力しています。会報の発行は編集方針の決定から印刷完了まで、2カ月から3カ月かかる長丁場です。無事に読者への配布・郵送が終わると開放感を味わえます。また執筆者との交流ができるのも広報部ならではのと言えるでしょう。写真などの記録の整理、会計処理等の事務的な仕事も大切ですので、メンバー全員のチームワークが大切なことは言うまでもありません。読者にも執筆者にも喜ばれ、また楽しんで読まれる会報を目指して活動しています。

会報今昔



1号 1992年10月



59号 2003年2月



133号 2018年5月



150号 2022年5月

ホームページの制作
土曜教室 小林保



会計部・事務局・保育室 活動紹介

会計部

会計部の活動は、その名が示す通りお金の管理です。TIFAの活動資金として会員の皆様から集めた会費と、立川市より支給される受託金があります。日本語教室が楽しく健全に運営されるように、お金の管理をしています。歴代会計部を務めてくれた方々により、これまで無事にご報告できています。今年度は木曜教室2名、土曜教室3名の計5名で協力して活動しています。

コロナ禍、様々なことが変わってきています。ここ2年間は、自粛を余儀なくされ以前のように皆が一堂に会するようなイベントがあまり行われませんでした。仕方ないことですが寂しい限りです。一刻も早くコロナが収束し、以前のような楽しいイベントが開催できる様、会計部一同願っています。

(木曜教室：森和子 長塚由美子 土曜教室：前田真希 坂本篤子 浅川克之)



事務局

事務局の仕事は、TIFA全体を動かしていくことです。重要な決定は運営委員会で下されますが、TIFAのその時々課題が事務局に集まって来ます。それを議題として整理して運営委員会に諮り、決め事の方角付けをしてゆきます。ですからTIFAの現状・課題がビビットに俯瞰できる重要なセクションです。集まってくる課題だけでなく、自ら課題を発見し、解決策を考え、それを形にしてゆくという意義のある仕事でもあります。

会議の準備や議事録作成は負荷の掛かる仕事と思われがちですが、それだけやりがいのある仕事と言えます。

(木曜教室：富田康予 森田真澄 山田さち子 鈴木洋子 縄智子)

(土曜教室：奥田正博 味香建夫 今村奈菜 伊藤章浩)



保育室

TIFA保育室では、受講生の皆様が安心して勉強に集中できるよう、講座の間は別室でお子さんをお預かりしています。

私達保育士は、保育の時間がお子さんにとっても日本語の学びとなるよう日本語で接していますが、そこに言葉の壁を感じることはありません。表情や雰囲気、声のトーンといった非言語コミュニケーションで繋がり、そこに言葉が添えられているというイメージです。

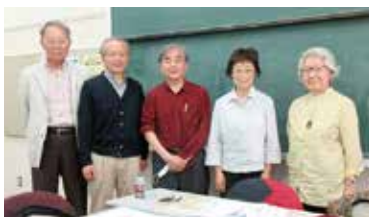
保育室では国籍も言語もバラバラの子ども達が、同じもので遊び、笑い合い、楽しみながら時間を過ごします。折り紙や手遊び歌など、日本文化を取り入れながら楽しく学び、「また来たい!」「楽しかった!」と思ってもらえるような保育室を目指しています。

(保育士 中川美織)



特集1 座談会 コロナ禍での学習—未来に向かって

出席 柏田 泰利 (木曜教室 部長)
 神原 修 (木曜教室 前部長)
 佐藤 民江 (土曜教室 部長)
 司会 橋本 溪一 (土曜教室)
 記録 赤嶺 令子 (副会長 木曜教室)
 開催日時 2022年4月24日



橋本 この2年数か月には、コロナ禍での教室運営に苦労されてきました。今までの経過をお聞きし、今後も続くwithコロナの時代に、どのように対応していくのかをお伺いしたいと思います。初めに、これまでの取り組みについてお話しください。

佐藤 土曜教室はコロナ禍以前、常に満席で活気にあふれていました。しかし感染拡大のため2020年2月に教室休講、以降感染状況を見ながら授業再開と休講を繰り返しました。2020年9月に授業を再開しましたが、検温等の感染防止対策、密を防ぐための人数制限を行いました。ボランティアと受講生の1対1の授業の徹底、新規受講生の待機、長期受講生の卒業制も導入しました。またオンライン授業も開始しました。

神原 木曜教室は2020年3月に休講し、同年9月感染対策を徹底したうえで再開となりました。ボランティアと受講生双方の出席可能人数のバランスを考慮し、受講生の隔週授業方式を採りました。人数制限をしながらみんなが授業を受けられる方法です。オンライン授業も研修会を行いながら実施しました。

橋本 様々な対策で教室はどのように変わりましたか。

佐藤 受講生は大幅に減りましたが、定着率はよくなりました。静かに熱心に勉強しています。2021年以降は七夕などの季節行事やスピーチ大会を復活しました。

神原 ボランティア・受講生の数とも減少しました。しかしクラスターを出さずに授業を継続するという強い思いを持って、全員が緊張して授業や教室運営を行っていました。2020年9月に対面授業を再開した時は、みんなが授業ができるという喜びに満ちていました。

橋本 木曜教室の隔週授業はどのような評価でしたか。

神原 定員制限の中で授業を継続するには、このやり方しかありませんでした。アンケートなどを何度もやり、合意を得ながら進めました。

赤嶺 分散登校による1対1の授業は、授業内容の密度が濃くなり良かったという思われ評価も得ました。

橋本 オンライン授業についての評価はどうですか。

佐藤 土曜教室はオンライン授業が当初10名程度でした。2021年秋以降対面授業が増えた中では4名ほどです。オンライン授業はコロナ禍では非常に有効と思いますが、授業の実態を正確につかめないうことや、グループ活動ができないという問題点があります。

神原 木曜教室のオンライン授業は4名程度でした。感染の心配がないことや授業時間を柔軟に設定できることは利点ですが、授業の実態把握や各種行事への参加の難しさなど、土曜教室と同様な課題もあります。

橋本 今後の活動についてどのようにお考えですか。

佐藤 コロナ禍の活動を経験して、改めてTIFAの活動のあるべき姿を考えさせられました。日本語ができずに生活に支障が出ている人のために活動すること、また教室に来てお互いに声を掛け合い、グループで活動できる場を提供することが大切だと思います。卒業制度と予約待機制は順調に動いており継続していきます。

神原 今までは感染抑制がメインでしたがこれからは小集団活動など受講生にとって有効な授業機会を増やす取り組みが必要だと思います。

柏田 withコロナの中では、今の方式を継続したいです。コロナ慣れや油断をしないようにしたいです。Afterコロナになると1対1だけでなく受講生複数の授業も増やしていきたいです。お互いが助けあう生き生きとした授業ができる面もあります。また日々の受講生の増減にも対応できると思います。

橋本 未曾有のコロナ感染症の中で、授業継続に努力されている様子をお聞き出来、大変有難うございました。また出席者の方々が話されていたように、ボランティア全員の協力で感謝したいと思います。

特集2 西砂教室の歴史

佐藤 公男



西砂教室の前身は松中教室ですが、それ以前に設立された「松中団地日本語教室」がルーツになります。事の始まりは、日中国交正常化以降の残留日本人の帰国が発端でした。東京都が帰国者用住居として松中団地の提供を始め、住民が相当数増えたことで、文化や習慣の違いから既存住民とのトラブルが多く発生しました。その対処法として、言葉の障害を軽減するために地域ボランティアが日本語を教えることになり、松中団地内に日本語教室が生まれました。

ボランティア募集の記事は2002年06版広報「たちかわ」に掲載されましたが、団地自治会の活動としては珍しく、朝日新聞等いくつかのメディアでも取り上げられ、多くのボランティアが集まりました。当年9月に教室が発足しましたが、ボランティア講師数は30余名、受講生は中国残留帰国者とその家族のほか、近隣の市からも集まり、総勢で40～50名でした。活動資金のほとんどはボランティアの自己負担で賄い、受講生用の教材も買い与えていたとのことでした。教室の場所は松中団地内集会場のほか倉庫の2階でしたが、環境は決していいとはいえない状況でした。

そのような窮状を知った当時の松中小学校校長が空き教室の利用を認めてくれたため、2004年から会場を松中小学校へ移転しました。ここでの受講生は、中国人以外にベトナム人、ペルー人、ネパール人、モンゴル人などが増え多国籍になっていきました。設立後5年ほどを経過して、既存住民とのトラブルが減少していき、今では全く聞かれません。設立時以降尽力されたボランティアの皆さんの成果と言っていいでしょう。

2011年になり、当時のTIFA会長であった齋藤寛氏のご尽力によってTIFAの一員になり、名称も「TIFA松中教室」になると、市からの受託金で資金的な問題は一扫されました。一方、小学校に暖房はなく冬の時期は寒さに耐えながらの学習でした。また、小学校であるため夜の警備上の問題が発生し、移転することとなりました。

幸い松中小学校から500mの西砂学習館に空きがあり、2016年1月より移転し、名称も「TIFA西砂教室」としました。移転で受講生が激減するのではとの心配もありましたが、結果は逆に過去最高の出席実績で延べ参加受講生265名（3学期のみ）を数えました。因みにこの当時の受講生及び講師の数は、2014年度から2018年度5年間の年平均で、受講生は延べ875名、一回の受講生数は22名ほどでした。また、ボランティア講師のこの5年間の在籍数平均は22名でした。

2015年以降、ボランティア講師と受講生の懇親会を兼ね、ハイキング形式での課外活動も活発に行っています。レインボーブリッジのウォーキング、紅葉の高尾山ハイキングなどを行いましたが、とりわけ受講生に評判がよかったのが近隣の国営昭和記念公園でした。

2015年から毎年夏に外部講師を招聘し、研修会を開催しました。国際基督教大学の半田敦子教授をはじめ、国立国語研究所の野山広准教授など、著名な講師を招いています。

移転して6か月後の2016年6月にホームページを立ち上げました。当時は他市のほとんどの教室がホームページを持っており、受講生の要望もあって、まずは西砂教室として立ち上げました。その後ボランティア募集に大いに役立っただけでなく、受講生の故郷でも学習室の写真が見られるようになり、大変好評でした。

さて、2020年から始まったコロナ禍による対面学習の休講です。2020年2月29日よりボランティア講師の総意により休講とし、以後2022年5月まで休講を余儀なくされました（2020年の2学期は開講）。研修会・懇親会などの行事も全て中止しましたが、Zoom等によるリモート学習は継続しています。

なお、2022年6月には対面学習を再開し、徐々に以前の活動を取り戻しつつあります。



特集3

「えんがわサロン」の成り立ちと活動

赤嶺 令子



TIFA多文化交流サロン（通称：えんがわサロン）は2016年度より立川市協働推進課（当時）の賛同支援を得て、市内及び周辺在住の外国出身者を対象に毎月定期的で開催され、今年度7年目を迎えました。この間、社会福祉協議会や学習館・図書館との連携、近隣大学との交流、地域コミュニティー紙取材への対応などを通し、サロンの在り方を共に模索してまいりました。又、他市日本語教室やTMCなどの国際交流関連団体にも協力を仰ぎ、多くの外国ルーツの方々に繋げて頂きました。

【創設の経緯、理念、実現へのステップ】

- ♥立ち上げのきっかけ➡外国にルーツを持つ人々（市在住、在勤、在学、TIFA受講生など）と市民が日常的に気兼ねなくふれあい、情報交換できる場を作れないものかと考えてきましたが、ネックは運営する「人」と「場所」の確保でした。
- ♥支援者の協力➡2016年1月の運営委員会にて予算を可決して頂き、取り組みを開始しました。また協働推進課（当時）に会場の年間予約と市報による恒常的なPR実施を確約頂きました。さらに、サロン支援メンバーを募集したところボランティア12名、OG3名、計15名の応募がありました。
- ♥サロンのイメージ➡「多文化共生の暮らし作りを提案する」をコンセプトに、名称を「えんがわサロン」とし、毎月第4金曜日の午後1時半から4時半、立川市柴崎会館にて開催することに決定しました。

【活動の概要とあゆみ】 *外国人・日本人数は参加者延べ人数

年度（回数）	外国人	日本人	テーマ・内容
2016年（12）	38人	90人	日本文化（折り紙、お茶のお点前、浴衣の着付け、健康談話など）
2017年（12）	35	70	簡単和食に挑戦：酢の物、芋＆豆、お汁粉、押し寿司、冷麦など
2018年（12）	50	76	日本文化（茶道、書道、華道、俳句、ミニバザー、民話など）
2019年（10）	45	63	世界の料理、和菓子作り（柏餅、水ようかん、茶巾絞り、焼菓子など）
2020年（4）	3	13	やさしい日本語で会話 *コロナ禍で開店休業状態が多かった。
2021年（9）	42	43	着物の着付け、不用品交換会、子どもサロン（布絵）、お花見など
2022年（2）☆	9	8	スマホの使い方、ストレッチ体操 ☆対象期間2022年4・5月

*参加者国名：中国、台湾、インド、米国、カナダ、コロンビア、ブラジル、韓国、ベトナム、フィンランド、ペルー、ルーマニア、モンゴル、タイ、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、ドイツ、ロシア、ガーナ

*コロナ禍の対応と対策：2020年1月から2021年10月にかけて、コロナ禍によるサロン中止または縮小を余儀なくされました。安全対策は講じたものの感染不安により参加者は激減しました。

【今後の希望と夢】

2022年4月よりサロンに「子どもの時間」を開設し、「外国ルーツの子どもの居場所」を提案しています。かつて親と共にTIFA日本語教室で遊び、おしゃべりしていた子ども達が成長し、社会の有為な人材として暮らしている様子を見るにつけ、サロン育ちの子ども達もそうあってほしいと期待します。サロンが今後も外国ルーツの方々と市民の交流の場として継続していくことを願ってやみません。



特集4 多文化共生・国際交流活動

齋藤 實

1. 多文化共生

立川市は、自治体の先陣を切って去る2016年12月19日下記の多文化共生都市を宣言しました。

立川市多文化共生都市宣言

わたしたちは、国籍や民族や文化のちがいを互いに尊重し、共生する地域社会の実現を目指して、ここに立川市を「多文化共生都市」とすることを宣言します。

- 1 思いやりの心を持って、互いの文化を理解し尊重します。
- 1 国際的な視野を持ち、みんなで協力して、多文化共生のまちをつくります。
- 1 とともに地域社会の一員として、笑顔で交流します。
- 1 やさしい気持ちで人や文化を受け入れ、多文化共生の輪をひろげます。



この宣言が発せられた背景には、一市民の立川市の未来像に対する市議会への陳情が源泉となっています。2014年9月17日の定例議会で、陳情者に提案理由の説明が求められ、9月29日の審議の結果、全会一致で採択されました。

この結果を受けて、協働推進課多文化共生係を中心に市内の国際交流団体からの意見聴取やパブリックコメントを求め、有識者からなる多文化共生推進委員会による宣言文の作成検討会が数回開催されて、上記の宣言文が作成されました。

21世紀の世界は、多様な文化的背景や民族的背景を持つ人々が同じ国や地域に住み着くことが、世界的な潮流となってきました。国家や社会が多民族化し多文化化する複雑さが深まって来ております。外国人居住者が年々増加している立川市においても「異なる者との共存」を常識として生活する事に慣れる必要があります。その根底をなすものは、日本語理解を前提としたコミュニケーション能力を高めた人間交流の大切さです。TIFAの活動意義を再確認したいものです。

2. 国際交流活動

A サンバーナディノ市交換高校生との交流

姉妹都市カリフォルニア州サンバーナディノ市との交換高校生を日本語教室に受け入れて、日本語の基礎学習や日本文化紹介、七夕行事に参加して頂き、ランチパーティーなどを通じてボランティアや受講生との交流を実施しています。

B 市内小学校との国際交流授業

南砂小学校、若葉台小学校の6年生、4年生とTIFA受講生との交流会が、毎学期に各学校からの要請を受けて開催されています。児童の自主的な企画により、伝統的な遊びやゲームやレクリエーションを楽しんでいます。学校側からも有益な機会と評価され、受講生にも貴重な楽しい体験と喜ばれています。

C 海外で活躍するTIFA出身者

マレーシアや中国、ベトナム、マダガスカルなどに日本語講師として出かけるボランティアも育っており、国際交流の幅が拡大しつつあります。



CLASS MATES

木曜教室 西砂教室



趙洒鈴 (チョセリョン) 韓国 木曜教室

日本語を習ったきっかけは日本のアニメとドラマです。おしゃべりは好きでしたが、漢字が苦手な私にとっては読み書きが億劫でした。苦手を克服したいと思っていた頃、日本語教室の先生に出会い、本の音読を始めました。最初の本が「1945年のクリスマス」です。憲法の条項等難しい内容で挫折しそうになりましたが、先生のおかげで最後まで読むことができました。その後自信が付き、他の本にもチャレンジしました。先生と話合ったり、じっくり考える時間が好きになり、自分の変化に気づきました。

これからも子供のように夢を持ち続けたいと思います。



游明修 (ユウメイシュウ) 台湾 木曜教室

数年前、家の近くの農家の人に「すみませんが、サツマイモの葉を売っていただけませんか？飼っているウサギにあげたいので」と本当は自分が食べたいとは言えずに頼んでみました。農家の人はお金はいらないからと言って、たくさんのサツマイモの葉とサツマイモ数本をくれました。私はとても嬉しくなり感謝の気持ちで一杯になりました。日本ではサツマイモの葉を食べる文化はありませんね。でも台湾では普通に野菜としてサツマイモの葉を食べます。そしてサツマイモの芽も炒めたりします。健康にとっても良いです。コロナ禍の今、台湾の料理を懐かしく思います。



横山萌 (よこやま もえ) 日本 木曜教室

2015年にTIFAで日本語の勉強を始めました。当時私は我が家の子供たちの教育に困っていました。日本語が片言の母親はどうやって日本生まれ日本育ちの子供たちの教育をするのか、日々不安が続いていました。その時から、日本語を勉強することを決意しました。先生方のおかげで3年後、日本語能力試験1級に合格しました。そして子供たちとの会話も増えて、受験勉強のアドバイスをしたり、常に応援の言葉をかけたりなど、母親としての役割を果たしました。私自身の日本語の勉強は子供たちの志望校合格に繋がりました。日本語教室はとても貴重な存在です。



グエン タイン ナム ベトナム 木曜教室

去年の9月から、日本語教室に通っています。それまでは日本語の勉強はほとんど独学だし、日本人と話す機会がありませんでした。また、職場で上司や同僚と日本語で話すと、すごく緊張して、自信をもって話せませんでした。最初は会話力が低いので先生方と話せないだろうと思って、心配しましたが、先生は親切で難しい言葉も詳しく教えてくださいました。仕事や生活のアドバイスをしていただいたり、日本の文化も教わりました。日本語教室に通ってからというもの、前より、日本人やほかの人と話す時の緊張はなくなって、自信をもって話せるようになりました。



汪洋 (おうよう) 中国 木曜教室

「硯に活きている」

硯の産地を故郷にもつ私は、現在の世界的な需要激減に伴い、その硯の使用文化などが衰退の一途を辿っていることに危機感を抱えてきました。

その衰退に歯止めをかける一助として、現代に合う実用的機能性を備えた新たな硯のデザインを制作することを研究しています。

新しい時代に合う硯文化、書く文化の提唱は、中国だけではなく、日本乃至世界に広げたいと考えています。



黒川ラッドワーン タイ 木曜教室

私が最初に日本語の勉強に興味を持ったのは、タイの大学2年生の時でした。その頃から日本企業がタイにたくさん進出してきたので、日本企業に就職するために日本語学校に通い始めました。その後、結婚を機に日本に住み始めてから今まで、TIFAをはじめ、色々な国際交流協会に日本語を教えてもらっています。

子育てをしながら17年間かけて、やっと日本語能力試験1級を取得出来ました。今まで日本語を教えてくださいました方々にとっても感謝しています。



黄孫一然 (きただ かずなり) 日本 西砂教室

2016年10月頃、西砂教室に参加して日本語や日常生活等をボランティアの先生方にマンツーマンで教わりました。昭和記念公園で紅葉を見たりゲームをしたり、とても楽しかったです。私の人生の上で大事なことは新姓名のフリガナを付けて頂いたことです。帰化後に両親の姓の組み合わせと幼い頃のあだ名で新姓名にすることを決めましたが、日本人に馴染みの読み方がわからなくて悩んでいました。担当の先生が相談に乗って下さり、図書館に連れて行って調べて下さいました。その後、私は黄孫 一然 (きただ かずなり) になりました。本当に感謝しています。



レー ホン ニュン ベトナム 西砂教室

私は結婚してからすぐに日本へ来て、間もなく2年になります。ダナンから日本に到着した日はとても寒い日でしたが、日本はきれいな国だと思いました。夫と電車に乗って家へ帰りました。電車はすごく便利で、時間通り走ることに、びっくりしました。職場はベトナム人とフィリピン人が多くて、なかなか日本語を練習するチャンスがありません。3か月前から西砂教室で日本語の勉強を始めました。早く日本語を話せるように頑張りたいと思います。私の故郷にはビーチとホイアン世界遺産があります。とても綺麗なところですよ。ぜひ行ってみてください。



編集後記

2021年5月総会に於いて記念誌の発刊が決定され、同年7月に記念誌作業部会（後日編集部会に改称）が発足しました。以後定期的会合やメールによる連絡・作業を重ね、この度ようやく発刊の運びとなりました。

記念誌編集にあたっては、TIFAの過去をしっかりと記録として残し、未来に継承することを第一としました。TIFAの日本語教室・多文化共生・国際交流活動の歴史として、この記念誌が少しでも皆様のお役に立てることを願っています。

また、記録の収集や原稿執筆におきましては、運営委員会及び会員各位にご尽力頂きお礼申し上げます。

最後に記念誌発刊にあたり、ご多忙にも拘らずご祝辞を頂きました市長、市議会議員、先輩の方々に厚く御礼を申し上げます。
(編集部会長 的場正道)

記念誌の編集では、20周年記念式典からその後の10年間の歴史「TIFAのあゆみ」を主に担当しました。

私がTIFAに入会したのは2011年で、20周年記念式典を開催した年でした。各種イベントやTIFA会報等の資料を調べていくと、何だか自分自身のTIFAでの10年間の足取りを辿っていくような気持ちになりました。10年間に実にいろいろなことが有り、記念誌に載せるイベントを選ぶことより、紙面スペースの制約で、どれを載せず削除するかに苦心したような感じでした。幸い企画渉外部や広報部に長く所属していたので、手元にイベントの写真や原稿が有り、それらを利用することで何とか編集することができました。

途中、多くの方々に助言をして戴き本当に感謝をしています。
(小林保)

30周年記念誌作業部会に携わることができ感慨一入です。TIFAに関り20年になりますが、20周年記念誌作成の折にも編集委員として参加しました。今回は過去10年の歩みを振り返り、次の10年さらに未来に繋げる冊子を目指そうと気持ちを新たに臨みました。

10年ひと昔と申しますが、かつて、日本語教室で学ぶ両親のそばで遊んだり、学んだりしていた幼い子供たちが、今度は同じ境遇の外国ルーツの子供たちを支援する側になるまでに成長されました。素晴らしい循環とその過程を垣間見ることができる醍醐味を実感しています。

TIFAのこれまでに尽力されたすべての皆様に深くお礼申し上げます。

(赤嶺令子)

私は2009年にTIFAに入会、何もわからない中で始めて12年になります。初めは研修会に出たり本を読んだりして、自ら勉強しながら教えました。自分が調べたことをよく聞いてくれる受講生の笑顔を見ると、もっと勉強しようと思いました。

今回「コロナ禍での学習」の座談会の司会をしました。その中で「大変な2年間であったが、TIFAの活動はどうあるべきかを考えさせられた」との発言がありました。本当にそう思います。活動が制限されれば、その中で大切なことをどうやっていくかを考えざるを得ないからだと思います。

TIFAの原点「立川市に住む外国人の日本語を学ぶ助けをしていく」を基本に、地道に活動を続けていきたいと思っています。
(橋本溪一)

西砂教室は地理的に柴崎教室から少し離れています。今回このTIFA30周年記念誌の編集部会には、主に二つの間を繋ぐことが役目だと思って参加しました。編集自体には何の経験もなくあまりお役に立てなかったと思いますが、実際に自転車をこいで体を使って繋ぎました。

原稿の作成、写真の提供などご協力をいただきました西砂教室関係の皆様ありがとうございました。

TIFAの日本語教室には、2013年から参加させていただいております。授業の前に受講生の興味・嗜好に合いそうなことを準備して行って、授業の終わりに「今日は楽しかったです」などと言われた時は、自分もうれしく感じて元気の源となりました。

(遠山新一郎)

TIFA 30th Anniversary 創立30周年記念誌

発行日 2022年11月1日
発行 立川国際友好協会
HP : <https://tifa-class.net/>
印刷 ぎょうせいデジタル株式会社

TIFA 30th

立川国際友好協会

